入来町の疱瘡踊

【所　在　地】薩摩川内市入来町浦之名（疱瘡踊保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 38 年６月 17 日

入来町麓に伝えられたもので，記録によると，寛政２（1790）年，文化 11（1814）年など疱瘡踊を踊った日が，明治 19（1886）年まで７回記されている。疱瘡（天然痘）が流行した時に，不定期に踊られてきたのであるが，種痘の普及によって天然痘から解放されたため，以後は何かの祝いの時に踊られている。

踊るのは女性ばかりで，紫の頭巾に黒紋付着物，先頭に伊勢の皇太神宮の神を表す大きな幣をかついだ１人が先導し，何列かの縦隊で正面を向いて踊る。楽は太鼓と三味線で，初めに「トンコチンチン」と呼ばれている楽だけの踊りをし，終ると一同しゃがみ，幣持ちが祝詞を述べる。次に「様はお伊勢」，「志賀の唐崎」，「今年ゃよい年」などという歌で踊る。入来町麓の疱瘡踊は疱瘡踊の代表的なもので，動きの少ない，単純だが心のこもった気品のある芸能である。